

レジメン名

Ph陰性ALL寛解導入療法

出典 JALSG ALL202

## 実施部署区分

入院
 外来
 処置

対象疾患

Ph陰性ALL(60歳以上\*)

進行・再発  
補助療法(術前・術後)  
初発  


\*出典では65歳未満だが、田所医師より上記で登録と。

## 投与減量の基準

その他			

## 投与中止の基準

Cr	2.0mg/dL以上		
T-bil	2.0mg/dL以上		
その他			

1クール期間

総クール数

1クール

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
ダウノルピシン(ダウノマイシン)	30mg/m <sup>2</sup>	輸液100mL	30分	d1-3
ビンクリスチン(オンコビン)	1.3mg/m <sup>2</sup> (上限2mg)	輸液100mL	30分	d1、8、15、22
シクロホスファミド(エンドキサン)	800mg/m <sup>2</sup>	輸液500mL	3時間	d1
L-アスパラギナーゼ(ロイナーゼ)	3000KU/m <sup>2</sup>	AQ5mLで溶解 輸液250mLに 希釈	2時間	d9、11、13、16、18、20
プレドニゾン	60mg/m <sup>2</sup>	経口		d1-7
※ロイナーゼ投与時にショックがあらわれるおそれがあるので、皮内反応試験をロイナーゼ投与に先立って実施する。実施方法は以下の通り。 ロイナーゼ5000K.U.を日局注射用水2mLで溶解後、日局生理食塩液にて全量5mLとする。このうち0.1mLを注射筒で分取し、日局生理食塩液で全量1mLとした後、この0.1mLを皮内注射する(投与量:10K.U.)。皮内注射後15~30分間異常がないことを確認する。				

1日投与順  
(経時的にプレメドイケーション・ポストメドイケーション、  
溶解液まで含む)

day1 ①グラニセロン3mgハック(15-30min) ②ダウノマイシン30mg/m <sup>2</sup> +輸液100mL(30min) ③オンコビン1.3mg/m <sup>2</sup> +輸液100mL(30min) ④エンドキサン800mg/m <sup>2</sup> +輸液500mL(3hr) ⑤生食50mL(フラッシュ用)
d2、3 ①グラニセロン3mgハック(15-30min) ②ダウノマイシン30mg/m <sup>2</sup> +輸液100mL(30min) ③生食50mL(フラッシュ用)
d8、15、22 ①生食50mL(ルート確保用) ②オンコビン1.3mg/m <sup>2</sup> +輸液100mL(30min) ③生食50mL(フラッシュ用)
d9、11、13、16、18、20 ①生食50mL(ルート確保用) ②ロイナーゼ3000KU/m <sup>2</sup> +注射用水5mL+輸液250mL(2hr) ③生食50mL(フラッシュ用)
d1-7 ①プレドニン60mg/m <sup>2</sup> 内服